

清田入植150周年記念 清田区まち歩き講座を開催

清田区発祥の地である清田小学校(清田1条4丁目)周辺の碑や歴史の痕跡を訪ね歩く「清田区まち歩き講座」が2023年6月24日(土)行われました。参加者は12人でしたが、郷土史家らから直接説明を聞きながらの歴史散歩でした。

これは清田区民センターが主催し、あしりべつ郷土館の協力で実現しました。説明役は郷土史家の了寛紀明さんと北海道文化財保護協会副理事長の田山修三さん、そして地域メディア「ひろまある清田」代表の川島亨さんです。3人ともあしりべつ郷土館の運営企画委員です。

清田小学校前では、開拓功労碑を見学しました。今から150年前の明治6年(1873年)、今の清田小付近に岩手県人の長岡重治が最初に入植、開拓を始めました。長岡重治は駅逓、旅館、木材業を経営し、水田を創設し、自費で道路・橋を造り、神社を興し、学校を造るなど清田地域の基礎をつくりました。重治の子らの子孫も地域の発展に努め、その功労を称えるために、この開拓功労碑が昭和22年(1947年)建立されました。

清田小の校庭の一角に「ゆめ田んぼ・あしりべつ」という水田があります。これは、かつてこの地域が水田地帯であったことを今に伝えようと、札幌清田ライオンズクラブが寄贈したものです。毎年、清田小児童が田植えと稲刈り体験をしており、その説明も行われました。

清田小学校前を通る道路(旧道=旧国道36号)は、もともとは明治6年(1873年)に完成した「札幌本道」と呼ばれる幹線道路でした。この道路沿いに、かつては宿泊所(旅館)、清田郵便局(今の地域さろん「ぽっけ」)、診療所、長岡商店、清田消防署、公民館などが建ち並びました。



厚別神社発祥の地を散策=清田緑地内



開拓功労碑を見学=清田小学校前



厚別神社の旧本殿を見学=厚別神社境内

この後、厚別神社(あしりべつ神社)まで歩き、境内で三橋宮司さんから神社の歴史をうかがいました。今の神社本殿(昭和45年造営)の右奥に、大正6年(1917年)に造営された旧本殿がひっそりと保存されています。これも清田区の貴重な歴史遺産です。神社境内には、忠魂碑や清田会館の跡碑、上相撲記念碑などがあり、それぞれ解説が行われました。

最後に、参加者は清田緑地に向かいました。この一角の森の中に「厚別神社発祥の地」碑があります。また、近くには長岡家の小さな祠があり、赤い鳥居が森の木々の間に見えました。参加者は「先人の苦勞を知り、とても良かった」等々、充実した時間を過ごせたようでした。このような取り組みを2024年も行いたいと思います。

明治期 清田区にあった月寒村の「学田地」



1. 「学田(地)」（がくてんち）とは

左の図は、大正5年の地図です。地図の中央付近（現在の平岡付近）に「学田(地)」と記されています。

「学田」とは、小学校や大学など、学校が所有した山林・田畑のことです。開拓初期の学校は公立の学校であっても、主に住民の拠金で子弟の教育費が維持されていました。

そこで、開拓使は教育運営の補助のため、各学校(村)に土地を与え、その収益で学校運営(教育費)の安定化を図る施策をとりました。

2. 「月寒村厚別一帯連絡図」の「学田地」

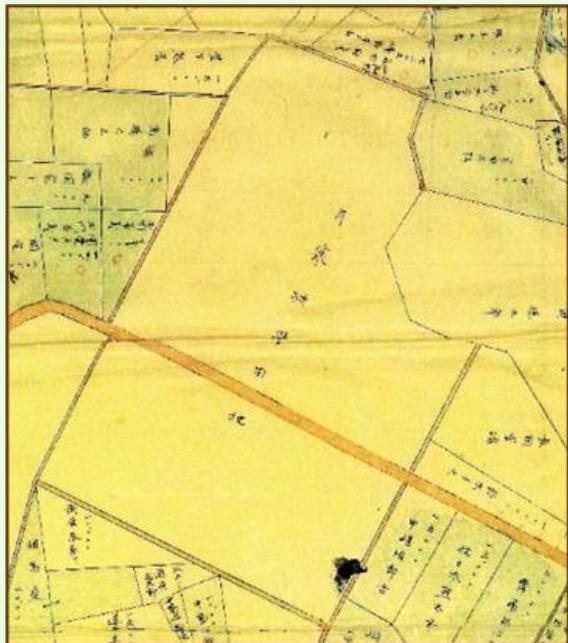
左の図は、あしりべつ郷土館所蔵の「月寒村厚別(あしりべつ)一帯連絡図」(現在の住宅地図)です。

地図の中央に「月寒村学田地」と記されています。(方角は、上方が南になります。)

月寒村の「学田地」は、何度かの申請の後、明治18年(1885年)4月21日付けで付与されました。

土地の広さは、68町8反20坪=206,420坪(約68ha)でした。
<注:町=約1ha>

現在の清田区、平岡・真栄・美しが丘地域で、旧国道36号線の南北に当たる一帯となります。



3. 月寒歩兵第二十五聯隊の「厚別演習場」に

ところが、この「学田地」すべてが、明治34年(1901年)に、月寒歩兵第二十五聯隊の「厚別演習場」となります。(明治34年12月26日付「北海道タイムス」に掲載)

そして、月寒村の「学田地」は、明治35年に、現在の北広島市の仁別(ニンベツ)の箇所と交換されました。

左の図は、「厚別一帯連絡図」と札幌法務局南出張所の図面(昭和7年調査)を参照し、現在の地図に重ね合わせて作図した「学田地」の区域です。

「厚別演習場」は、当時、弾薬庫が造られ塹壕が掘られました。また、近隣の土地の接收も行われました。

戦後になって、「厚別演習場」は解放されて、平岡開拓団・里塚開拓団が入地し開墾が行われました。その後、昭和40年代頃から都市化による土地造成がなされ、現在のような住宅・商業地などへと変貌しました。

記:了寛紀明



清田区にあったアメリカ様式の酪農畜舎

北海道開拓の村に移築・復元

北海道開拓の村（札幌市厚別区厚別町小野幌50-1）に昔、清田区内にあった酪農畜舎が移築・復元されています。「清田区にも昔、このような北海道らしい酪農畜舎があったのか」と感慨深いものがあります。

この建物は、今の札幌市清田区平岡公園東10丁目付近にあった酪農畜舎で、昭和61年（1986年）に移築・復元作業が始まり、昭和63年（1988年）に公開されました。

建物は、大正末期に札幌農学校出身の小川三策という人がアメリカから取り寄せた設計図を参考に建築したもので、19世紀のアメリカの西部開拓で発達したバルーンフレーム構造が特徴です。

バルーンフレーム構造とは、ツーバイフォー工法（枠組壁工法）の前身で、主に明治期の道内で採用された工法です。札幌農学校（北大）第二農場（札幌市北区北19条西8丁目）のモデルバーン（模範的畜舎＝国の重要文化財）や札幌時計台（国の重要文化財）なども同じ工法の建物で、清田区にあった酪農畜舎は極めて貴重な歴史的建造物です。

建物は、木造2階建てで、面積は81.23坪（268.54㎡）。隣に軟石サイロも復元されています。この畜舎で小川家は長年、乳牛を飼育し、搾乳を行ってきたと思われます。

この酪農畜舎は、開拓の村に移築後の平成25年（2013年）、雪の重みで崩壊してしまいました。経年劣化で強度が下がっていたと考えられます。そして平成30年（2018年）4月、再生されました。

この旧小川家酪農畜舎があった平岡公園東界隈は、今は美しい街並みの住宅街になっています。宅地開発されたとき、畜舎は開拓の村に小川家より寄贈されました。（川島 亨）



このような風景が清田区にもあった＝北海道開拓の村



北海道開拓の村に移築、展示されている酪農畜舎



かつて平岡公園東にあった移築前の酪農畜舎(北海道博物館提供)

好評 あしりべつ郷土館の集団見学

あしりべつ郷土館では、専門スタッフの解説が付いた集団見学を受け入れています。昨年も小学生から年配者まで数多くの集団見学の方々に来ていただきました。スタッフは全員がボランティアで大忙しですが、うれしい悲鳴です。

小学校では、北野台小特別支援学級7名(8月31日)、平岡公園小3年生110名(9月14日)、清田南小3年生80名(12月15日)が来館。平岡公園小では9月6日、事前に郷土館スタッフが学校に出向いて出前授業もしました。また、同校は郷土館を訪問すると同時に、清田小前にある開拓功労碑などを訪ね歩く「歴史まち歩き」も実施しました。

地元の札幌国際大学の学生たちも、ゼミや授業の一環としてあしりべつ郷土館を利用してくれました(5月11日、6月20日、12月1日)。いずれも郷土館スタッフから清田の歴史を学びました。

社会人グループや年配者の集団見学もありました。札幌の句会「実桜札幌句会」9名(4月8日)、北広島市民大学OB会5名(9月20日)、清田区高齢者教室ふれあい学園20名(9月20日)、北野サタウンいきいきサロン12名(9月12日)です。

明治25年(1892年)頃に造成された灌漑用水路「吉田用水」跡(北野3条3丁目)の案内ツアーも行いました。札幌国際大学学生(5月18日)、「札幌の史跡を歩く会」5名(10月31日)、北野小4年生65名(10月30日)です。

「郷土の誇りと歴史を今に伝える」をモットーに、あしりべつ郷土館は今後も集団見学を受け付けます。



館内見学をする清田南小児童たち=2023年12月15日

利用案内

- 開館日 水曜日・土曜日(10時~16時)
- 入館料 無料
- 場所 札幌市清田区清田1条2丁目 5-3
清田区民センター2階
- 運営主体 清田区内の町内会連合会でつくる運営委員会
(区民による自主運営)



昔の清田区の写真 ありませんか？

あしりべつ郷土館では、昔の清田区の写真を集めています。ご自宅で眠っている写真などがありましたら、あしりべつ郷土館までご連絡いただくと、とても助かります。どんな写真でも構いません。

電話は011-885-0869
(水曜・土曜10時~16時)
です。



寄贈資料

以下の資料を寄贈していただきました。ありがとうございます。

有明小学校 振り袖羽子板等10点

鈴木俊子 ひな人形「7段飾り」

泉英子氏 五月人形

北野地区町内会連合会「創立40周年記念誌」

北野町内会「創立45周年記念誌」

つきさっふ郷土資料館「資料館だより44号」

亘信夫「幌内鉄道の橋梁」

アイヌ民族文化財団「イソポのはなし」

匿名 わらべ人形

了寛紀明氏【清田発掘】シリーズ
「善太郎と八紘学園の栗林」等 11点

アクセス・マップ



中央バス「清田小学校」から約520m

■郷土館ホームページ■

<https://ashiribetsu-museum.com/>
郷土館のホームページ QRコード ⇒



編集後記

予定より遅れましたが、無事、第5号が発行できました。「郷土館だより」は、あしりべつ郷土館に置いてあります。自由にお持ち帰りください。(川島亨)